

第2回石原研究奨励金候補研究募集について

鉄鋼に関する研究の振興とその実際化を図るため、本会では石原米太郎氏の寄贈に係る石原研究資金によつて、「石原研究奨励金」の制度を設けましたが、今回つぎの要項により第2回の候補研究を募集します。

1. 交付対象 鉄鋼の学術および技術に関する研究に従事する個人または団体。（研究者は原則として本会会員とするも、共同研究の場合本会会員以外の者が参加することを妨げない。）
2. 研究内容 イ. 研究途上にあるもの、またはこれから始めるものでもよい。（本奨励金を受けることによつて開始するものを含む）
ロ. 基礎研究、応用研究いずれでもよい。
ハ. 個人研究、共同研究（他の分野との共同研を含む）のどちらでもよい。
3. 交付金額 総額 50 万円以内の予定。
4. 選定方法 本会内に設けた審査委員会で選定する。
5. 推薦者 候補研究の推薦者は本会役員（理事、監事、前会長、支部長、評議員）とする。研究者本人の直接申込を受けない。
推薦書は東京都千代田区丸の内2の10仲14号館日本鉄鋼協会宛御送付下さい。
6. 推薦書記載項目 1. 推薦者氏名. 2. 研究題目. 3. 研究者住所、氏名、職業、年令. 4. 推薦理由. 5. 研究費の現状. 6. この奨励金の希望金額. 7. 希望金額の内訳. 8. 研究計画の概要. 9. 研究者の主な実績. 10. 研究者の略歴.
7. 締切 昭和 36 年 6 月 30 日
8. 報告 本奨励金を受けた者は、年2回の間接報告その他随時必要な報告、結果の報告を提出しなければならない。結果の報告は原則として公表するものとする。

海外事情の調査委託について

海外出張者に対し、本会が必要と認めた事項の調査を委託し、八幡製鉄渡辺記念資金中より調査費を贈る制度を設けましたが、本年度においても下記より実施いたします。

記

1. 調査事項 鉄鋼に関する学術、技術上の問題、その他鉄鋼業に関連ある一般的または個別的問題。
2. 受託者 本会会員たること。
3. 推薦者 本会役員（理事、監事、前会長、支部長、評議員）からの推薦による。本人からの直接申込は受けない。
4. 調査費 1人 20 万円以内。
5. 選考 本会内特別資金運営委員会で選考する。
6. 締切 昭和 36 年 6 月 30 日
7. 報告 調査委託を受けた者は帰国の後調査報告書を提出すること。

「鉄と鋼」英文誌 (Tetsu-to-Hagané, English Edition) の刊行および掲載論文について

本会では海外に対するわが国鉄鋼技術の現状紹介と技術交流の目的を以て欧文誌 Tetsu-to-Hagané Abstracts を 1951 年以來昨年まで毎年 1 回発行して参りました。しかしわが国鉄鋼業の近年における飛躍的發展に鑑みれば、鉄鋼の學術技術の研究、鉄鋼業の現状その他を海外に紹介するには従来の形式では不十分でありますので、Tetsu-to-Hagané Abstracts は No. 10 で止め、本年より表題、体裁を改め (Tetsu-to-Hagané, English Edition, A 4 版) かつ発行回数も年 4 回を予定、内容を充実したものとすよう準備中であります。これには従来のアブストラクトのほか「鉄と鋼」に掲載されたものうち、海外に紹介するに適當な論文、技術資料並びに展望、工場・製品の紹介記事なども掲載することとしております。

つきましては今後は「鉄と鋼」に論文を御寄稿のさい、その論文を新英文誌に掲載することを希望されるかどうかを書添えて頂くことになりましたので御協力をお願いいたします。ただしその採否は編集委員会に御一任願います。なお新英文誌に掲載のさいは改めてその旨御通知するとともに、別に英文原稿の御提出を願うこととなりますのでお含みおき下さい。

なお本英文誌は御希望の会員に有料頒布いたしますが、詳細は次号でお知らせいたします。

日本鉄鋼協会東海支部學術講演会 ならびに工場見学会御案内

下記により来る 5 月 22 日、23 日の両日本会東海支部學術講演会ならびに工場見学会を開催致します。多数御参加下さいませよう御案内申し上げます。

記

學術講演会	日 時	5 月 22 日 (月) 9 時より
	場 所	名古屋工業大学 (名古屋市昭和区御器所町)
工場見学会	日 時	5 月 23 日 (火) 9 時栄町テレビ塔下に集合
	見学工場	本田技研工業(株)鈴鹿製作所 (三重県鈴鹿市) (交渉中)
	申込要領	所属、職名、氏名を明記のうえ参加費 300 円を添え (バス・昼食代) 5 月 15 日までに東海支部宛にお申込下さい。
	定 員	50 名 定員超過の場合は抽せんによりおことわりすることがあります。

講演会 プ ロ グ ラ ム

第 1 会場

番号	時間	講 演 題 目	
	9:00	開 会 の 辞	
1	9:20	Mg 合金へ Be 添加の効果の検討	名工大 市川 理衛
2	9:40	Fe-C 系状態図における融体オーステナイト平衡に関する熱力学的考察	名 大 佐野 幸吉・〇高見 敏彦
3	10:00	18-8 不銹鋼における珪素および酸素の平衡について	名 大 佐野 幸吉・〇小島 康
4	10:20	水蒸気による熔鉄の酸化反応速度について	名 大 佐野 幸吉・〇伊藤 公允
5	10:40	鉄ニッケルコバルトおよびクロムよりなる 熔融合金中の酸素の活量	名 大 〇坂尾 弘・佐野 幸吉
6	11:00	軸受鋼の機械的性質のおよぼすリンの影響	愛知製鋼 〇荒川 武二・山本 俊郎 名 大 武田 修三・岩間 義郎

- 7 11・20 可鍛鑄鉄の水素分析について
旭可鍛鉄 鈴木 松夫・平松 安土, 静工試 花井 優・○平井 春彦
- 8 11・40 ベーナイト鑄鉄の冷却速度と組織との関係におよぼす微量成分の影響
静工試 ○花井 優・平井 春彦・渡辺・浅羽
- 9 13・00 ガス被包金属アーク溶接における送給ガスの湿度の影響について
名 大 関口春次郎・○益本 功
- 10 13・20 転炉における脱磷の基礎研究 八幡製鉄技研 瀬川 清・○渡辺 司郎・田中 徳行
- 11 13・40 13クローム鋼の熱処理と機械的諸性質との関係について
新三菱航機 石川 祐二・○浅山 行昭
- 12 14・00 プタンによる吸熱型炉気の発生ならびに浸炭について
トヨタ自動車 新美 格・鈴木 光一・○鮎谷 清司
- 第2会場
- 9・00 開 会 の 辞 (第1会場に集合)
- 1 9・20 Banded Structure の原因について 名工大 矢島悦次郎・○古沢 浩一
- 2 9・40 加工した α -鉄の再結晶による内部摩擦の変化について
名工研 堀田一二三, 名大 岩間 義郎
- 3 10・00 Differential Process による電気抵抗の測定について
名工研 ○堀田一二三, 名大 岩間 義郎, 名工大 大江 亮
- 4 10・20 銅合金の高温高压水による腐食に関する研究 (第6報)
住友軽金属 大津 武通・○佐藤 史郎
- 5 10・40 Al およびその合金の軟化半硬材に認められる加工, 軟化現象について (第3報)
住友軽金属 寺井 士郎・○馬場 義雄
- 6 11・00 " " (第4報) 住友軽金属 寺井 士郎・○馬場 義雄
- 7 11・20 Al-Mn, Al-Cr 合金焼鈍板の異方性と再結晶集合組織について 住友軽金属 網谷 俊男
- 8 11・40 カントメーターによる分光分析の Cu への応用 住友軽金属 沢田 敏男
- 9 13・00 Ti-Fe 合金の熱処理 大隈鉄工所 中村 元志・○芋瀬 利定
- 10 13・20 チタン鑄造用鑄型 (第4報) 名工試 中村 元志, 住友金属 ○島村 行俊
- 11 13・40 Alnico 5 の時効による熱膨張および比熱の変化 大同製鋼 加藤 哲男
- 12 14・00 鉛快削鋼の切削性について 大同製鋼 本田 義彦・伊藤 哲郎
- 13 14・20 迅速窒化鋼の研究 名工大 ○矢島悦次郎・古沢 浩一
- 14 14・40 コバルト基超耐熱合金の時効に伴う析出物の挙動について
名大 武田 修三・永井 直記・湯川 夏夫・○片岡 正勝
- 15 15・00 ポテンショ・スタットによる示差エッチングおよび電解分離について
名大 武田 修三・永井 直記・○湯川 夏夫
- 16 15・20 W-Cr 工具鋼の焼鈍と炭化物の挙動 名工研 齋田 義幸, 中野ハガネ 松下由一郎
- 17 15・40 鋼材の地疵の原因となる非金属介在物について
大同製鋼 梶山 太郎・加藤 剛志・関尾 勲
- 18 16・00 押湯保温剤について 大同製鋼 酒井条三郎
- 19 16・20 超低炭素ステンレス鋼の吹酸精陳に関する研究 日本ステンレス(直江律) 村瀬 系三
- 20 16・40 鑄物の凝固および冷却に関する研究 (第6報) 日本車輛 小幡 鍊
- 21 17・00 鑄鉄中の窒素の挙動について 名大 久恒 中陽・○上田 倅完